

城郭研究部会「中世を読む」

備陽史探訪の会

福山城 御用米蔵 の実態について

五千石蔵に収められた一万石の謎

- 城詰米制について
- 福山城における城詰米の運用
- 文献に見る御用米蔵
- 通説に対する疑問
- 御用米蔵のその後について

講師 田中伸治

2013/08/17

『新板 福山城』での御用米蔵の記述

(3) 北側

鬼門櫓と西の乾櫓（五間半・三間半の三層）の間は渡櫓でつないでいたが、中央に五千石蔵に通じる御蔵口御門（五間半・三間）があり、現在の城北広場や福寿会館の存在する一郭に達する。ここには御用米蔵が数棟存在し、五千石蔵とも称し、水野家時代に幕府から預かった米を貯蔵していた。（一六三九）
寛永十一年五月、九州の豊後から幕府に納入する米五千石を預かって貯蔵した記録があり、寛永十六年には、備中成羽からの米五千石を預かり、これは築切にあつた浜の蔵に貯え、合計一万石を収穫期には預かり、古米を売りはらつては新米に取りかえて、有事に備えたのである。この古米が出るので、福山の武士や町人はいつも古米を食べていたといわれている。（一六六二）

寛文元年十月には、幕命により五千石を塩飽島の舟で江戸に送り、また翌年五千石を預かり、その後、たびたび江戸へ送り、飢きんの年には救助米として各地に送っている。このように、幕府から預かつた米を貯蔵したのがこの五千石蔵であつたが、阿部家二代藩主阿部正福の享保時代に救助米として対馬や赤間関に廻送して以後は預からないので、自然と建物も崩れてしまった。現在の福寿会館はその大部分の地を占めている。

参考・引用文献

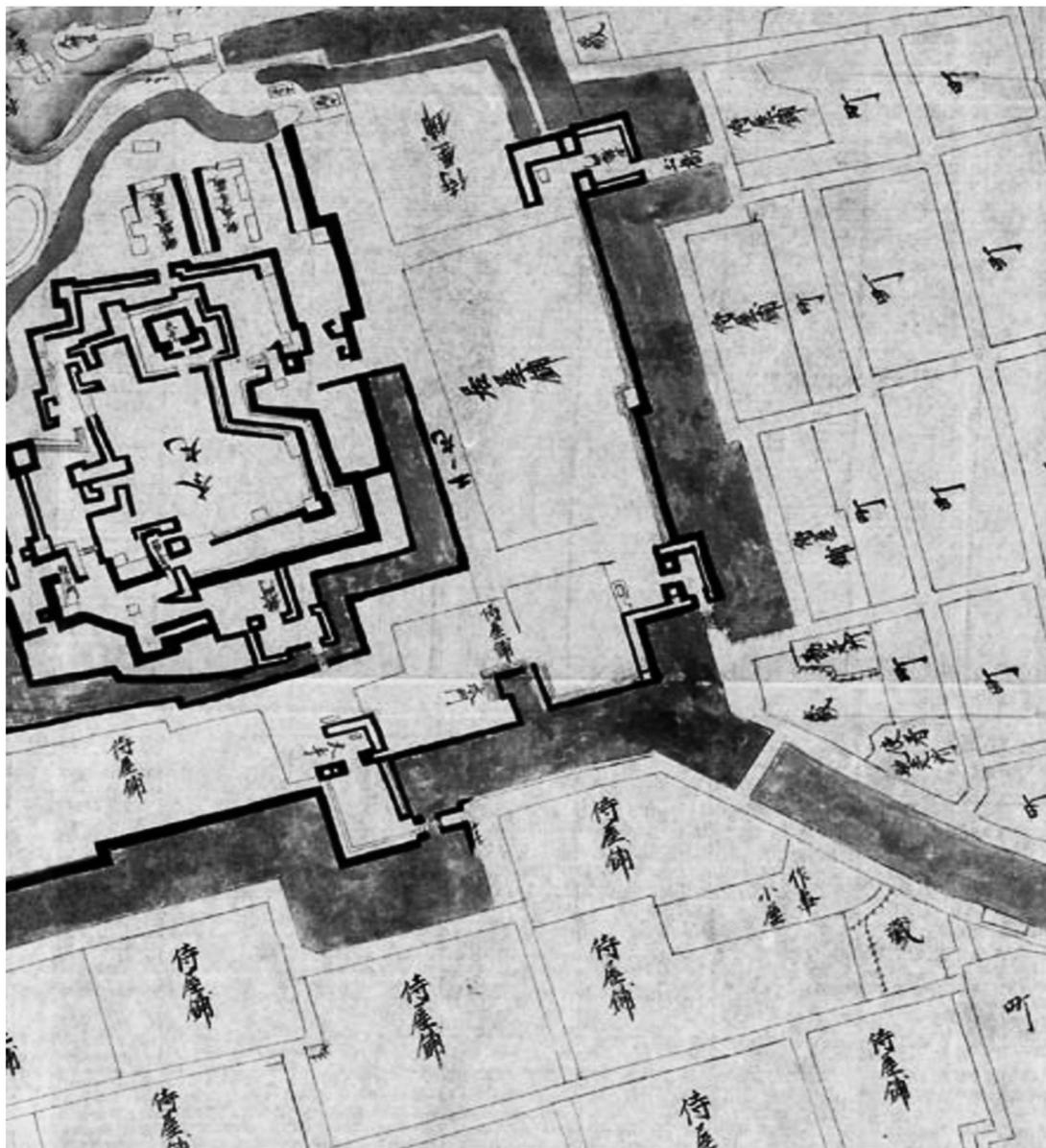
- ・「国宝・史蹟 福山城誌」 浜本鶴賓編 福山市役所発行（一九三六年）
- ・福山文化財シリーズ No.1 「福山城」 村上正名編著 福山市文化財協会発行（一九六六年）
- ・「小場家文書」 福山市教育委員会編（一九七四年）
- ・神辺の歴史と文化 第10号「神辺城をめぐる武将」 神辺郷土史研究会（一九八三年）
- ・芦田川文庫 6 「久松城―福山の歴史と文化―」 村上正名編著 芦田川文庫発行（一九八五年）
- ・「福山の文化財」 福山市教育委員会発行（一九九四年）
- ・「目で見る 福山・府中の一〇〇年」 平井隆夫監修 郷土出版社発行（一九九七年）
- ・広島県の歴史シリーズ「図説 福山・府中の歴史」 土井作治監修 郷土出版社発行（二〇〇一年）
- ・「おもしろふくやま史」 平井隆夫著 福山城博物館友の会発行（二〇〇一年）
- ・「徳川実紀」
- ・「福山語伝記」 浜本鶴賓写

『久松城』での御用米蔵の記述

3 北側の櫓と五千石蔵

鬼門櫓と西の乾櫓（五間半・三間半）三層櫓の間は渡櫓でつないでいたが、中央に五千石蔵に通じる御蔵口御門（五間半・三間）があり、現在の城北コートや福寿会館の存在する一角に達する。ここには御用米蔵が数棟存在し、五千石蔵とも称し、水野家時代に幕府から預かった米を貯蔵していた。寛永十一年五月九州の豊後から幕府に納入する米五千石を預かって貯蔵した記録があり、寛永十六年には備中成羽からの米五千石を預かり、これは築切町にあつた浜の蔵に貯え合計十萬石を収穫期にはあずかり、古米を売りはらつては新米に取りかえて、有事に備えたのである。この古米が出るので、福山の武士や町人はいつも古米だけを食べたといわれている。

寛文元年十月には幕命により五千石を塩飽島の舟で江戸に送り、また翌年五千石をあずかり、その後たびたび江戸や、救助米として各地にきんの年に送っている。このように、幕府からあずかつた米を貯蔵したのがこの五千石蔵であつたが、阿部正福享保時代救助米として対馬や、赤間関に廻送して以後はあずからないので自然と建物もくずれてしまった。いま福寿会館はその大部分の地を占めている。



国立国会図書館蔵〔日本古城絵図〕山陽道之部. 271 備後国福山城図

『水野記』における御用米の記述

兵糧米之事

一 備後福山城附兵糧米 壹万石

右城附米五千石者寛永十一年甲戌五月二日小笠原信濃守殿同老岐守殿を請取之、五千石者寛永十六年卯十月廿六日山田五郎兵衛殿猪飼二郎兵衛殿中村李右衛門殿を請取之都合老万石古日向守に御渡し積置候処、寛文元年丑十月五千石者可致返上之旨に付致上納候、又翌年寅五月右五千石代銀に而御渡し請取之候、天和元年に又五千石可致返上之旨に付致上納、又御渡し被成候に付、老万石城内之蔵に積置、俵数相改させ今度残置候、以上

元禄十一年寅八月

水野松之丞家来
吉田彦兵衛

『福山領分語伝記』に見る御用米蔵

一、御城米御受取御証文之写、兩度之分ニ而都合壹万石。

寛

一、五千石ハ京升也、豊後より

右者備後福山御蔵ニ納、慥ニ受取置申候為_レ後日_ニ如_レ件。

小笠原信濃守殿

小笠原耆岐守殿

一、五千石は京升也 備中より

右者備中成羽領寅ノ歳米、福山御蔵ニ納、慥ニ受取置申候為_レ後日_ニ如_レ件。

山田五郎兵衛殿

猪飼次郎兵衛殿

中山左右衛門殿

福山領分語伝記

備後叢書第七卷 P.383

『備陽六郡志』に見る御用米蔵

一、天守之後帶曲輪、藏口門之外、御城米蔵有、五千石と云。

水野家の御代より壹万石御預米有、五千石を濱の藏に入、

五千石ハ此藏に被入置、仍而五千石共御城米共云。然處近

來御用米と可唱由被仰渡、正熨公御代對州府中へ貳千百石

長州赤間か關江七千貳百石、御廻米被仰付、其以後御預米

無之故、廻場役所等も朽倒れ、御藏も大破に及候に付、三

間拾間の藏貳ヶ所、三間ニ貳拾五間之藏壹ヶ所、寛延三年

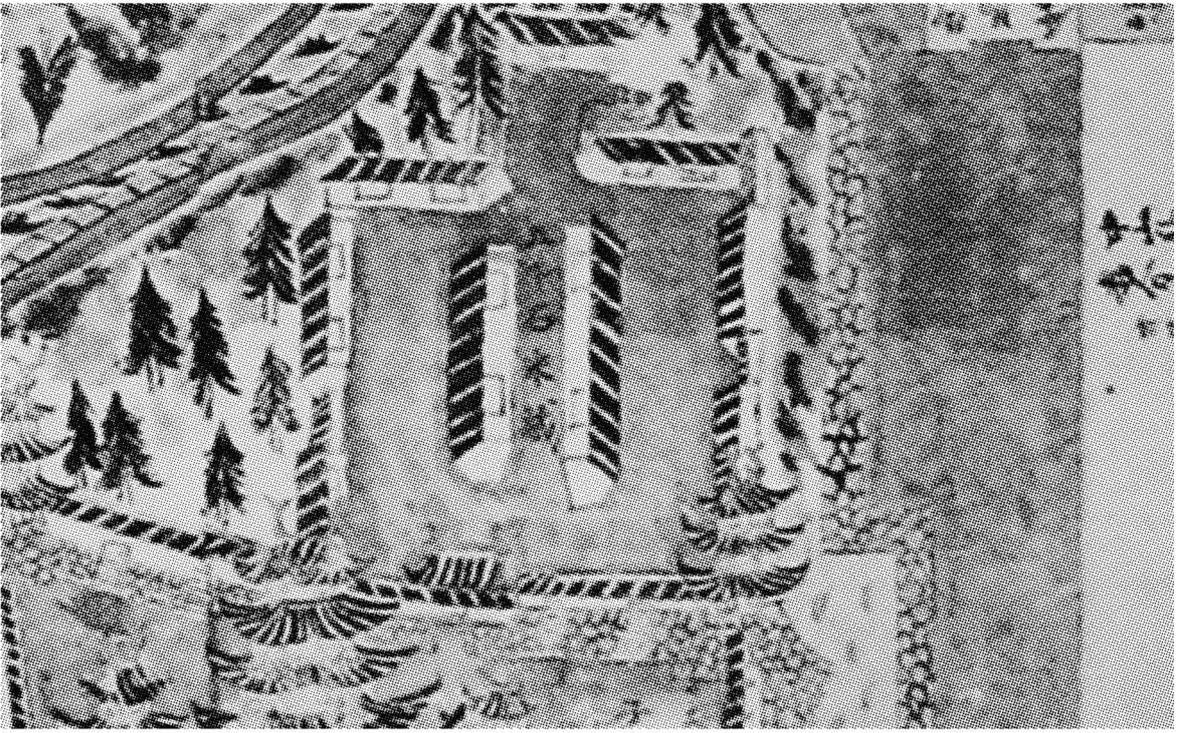
之春被崩。三間ニ拾間の藏三ヶ所、三間貳拾五間の藏一ヶ

所相殘。

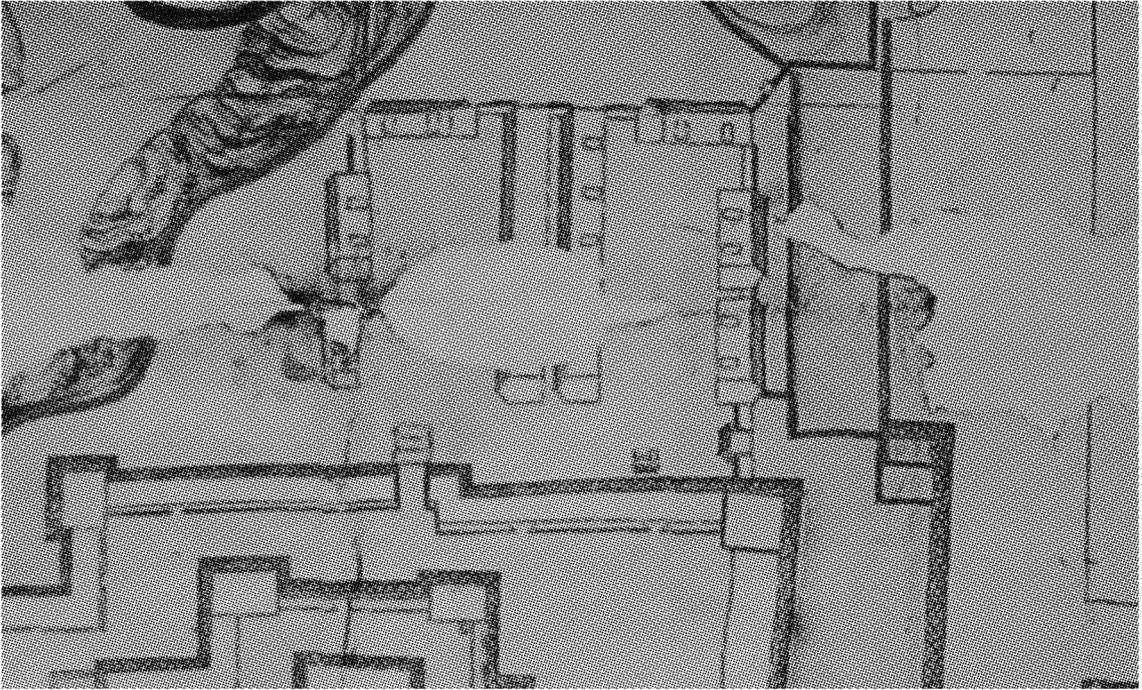
一、上之坪

備後叢書第一卷 P.382

小場家絵図



貞享元年福山城図



安永三年福山城城内絵図

